

# 新聞は人生のヒント

時事問題を分かりやすく解説することで人気のジャーナリスト、池上彰さんの講演会が27日、大分市のトキハ会館であった。大分合同新聞創刊130周年記念事業として、新聞ってなんだろうとむずかしいことをわかりやすくをテーマに講演とトークセッションがあった。新聞には自分の人生を切り開くヒントがたくさんある。世の中を自分なりの見方で見られるようになり、感性を磨くことができる」と話した。(21面に関連記事)

## 大分市で池上彰さん講演



毎日、10種類の新聞には目を通すという池上さんは、独自の読み方を披露。「朝食の時にパラパラと通り読んで、夜に改めて新聞を取り出す。これは大事と思った記事をヒリヒリと破ってストックしておき、後でじっくりと読み返す」と述べ、一覧性と詳報性を併せ持った新聞の特長を思いこなしていることを紹介した。

新聞記事は、中学や高校の入試問題でも取り上げられるために」と題して講演する池上彰さん(27日、大分市のトキハ会館、撮影・椎原新一)

## 「感性磨ける情報」

れ、教育教材として注目されていることを指摘。22日付の本紙朝刊に掲載された、タトゥー(入れ墨)をした訪日外国人客の温泉入浴を認めるかどうかの1の記事に触れ「外国ではファッションとしてタトゥーが定着している。おんせん県おいたでどう対応するかを考える絶好の記事」と話し、「私なら来年の入試でこれを出題しますね」と会場の笑いを誘った。

さらに、興味がある新聞記事をストックすることは「将来を考え、人生を切り開くヒントになる」と言及。「ストックした記事を後で見返すと、自分は一定のジャンルばかり集めていることに気付く。自分はこのことに興味があったんだと客観的に見直すことができ、将来の仕事や職業を決めるのに役に立つ」として「情報にお金を掛ければ、これからの人生は確実に変わる」と提言した。

第2部のトークセッションでは大分合同新聞の記者らと新聞やメディアの現状、これからの展望について意見を交わした。

講演とトークセッションの内容は12月24日付朝刊で詳しく載ります。

(乙 畔啓太郎)

(2016年11月28日付朝刊1面)

① 池上彰さんの新聞の読み方を朝、夜、その後に分けて記事から抜き出しましょう。

(朝)

(夜)

(その後)

② 新聞記事をストックすることが、将来の仕事や職業を決めるのに役立つのはなぜでしょうか。記事中の言葉を使ってまとめましょう。

③ いつのでもいいので新聞を開き、人生のヒントとなる言葉や事柄を見つけてみましょう。